

令和3年度 第1回 社会福祉士養成科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和3年8月20日（金）15：00～16：30

場所：zoom 形式

参加者名

委員 藤井 亘 （東京都自立支援協議会 委員）

委員 小田 智雄 （社会福祉法人やまて福社会 理事）

委員 佐藤 初美 （NPO 法人 10 代・20 代のにんしん SOS 新宿 理事長）

教員 秋山 雅代 （社会福祉士養成学科 学科長）

教員 片桐 正善 （社会福祉士養成科 科長）

職員 萬崎 保志 （教務課次長）

職員 松木 健太 （教務課）

議題：

1. はじめに

冒頭、司会の松木より、前年度振り返りがあった。

2. 昨年度検討事項から現在の取り組み状況について

・ソーシャルワーク実践研究会のオンライン（zoom）活用について

片桐)

昨年度ご提案いただいたオンラインの活用を今年度より早速取り入れた。4月、6月と現在までで2回実施しており、参加者は20名ほど。運営に関して今のところ問題なく進んでいると感じるものの、まだ手探りの状態といえる。

一番の悩みどころは『告知方法』。学校からお声掛けしている20名ほどの人数であれば、滞りなく運営が進むものの、HPなどからの告知を実施して、仮に参加者が膨大になった場合には管理が行き届かなくなる可能性がある。

まだ2回の開催なので、この形が有効な手段かどうか図りかねるところではあるが、オンラインでもできるという手ごたえもあったため、今年度いっぱいオンラインを継続し、1年やってみたタイミングで、また何かしらの報告ができると思う。

<各出席者からの意見>

特になし

・今年度の実習について

秋山)

今年度も学外実習とオンライン実習の2つを併用して行っている。
昨今のコロナウイルスの影響により実習先が減っている状況だが、学生に社会福祉の現場を少しでも体感してもらうべく、実習先にご協力いただき、1人あたりの学外実習の期間を短縮して現場での学びをできる限り提供している。

<各出席者からの意見>

特になし

3. 検討事項

・入学検討者への入学前教育について

片桐)

退学者の中には、社会福祉士のイメージをつかめないまま入学していることが要因の学生もいる。OCの際に“社会福祉士とは”という話しはしているものの、多様なキャリアを描ける社会福祉士は将来のイメージもしづらい部分がある。

各法人でも入職希望者を採用するにあたり、基準があるかと思うが、どのような基準で受け入れているのか、またどのような工夫をしているのか、お話しを伺い、本校としても入学前段階で何か取り入れることがないかヒントが得られればと思う。

<各出席者からの意見>

小田委員)

人の役に立ちたい、社会の役に立ちたいという人と希望を持って入職してこられる方も、業務をする上で厳しい現実を知り、途中で挫折する方もいる。入職前にそのすり合わせができる方が長く続き活躍している印象がある。とはいえ、現在のスタンスとしては本人の希望・意思を尊重し、現場で育てていくという比重が若干強いのが現状。

佐藤委員)

『自分自身の満足の為に』という方はお断りしている。『きちんと寄り添える人』が重要。働きたいという想いだけでは難しいと感じている。

藤井委員)

内定が決まったら内定者懇談会や、現役の職員との座談会の実施といった工夫がある。就職活動中の学生と話しをしていると、卒業後のイメージが持ちづらく、学校で学ぶ勉強だけではイメージができないという声もある。

→片桐)

コロナウイルスの感染状況にもよるが、教職員が間に入らない形で入学検討者と在校生や卒業生が話しをする機会は是非取り入れたいと感じた。リアルな話しをざっくばらんにすることができ、より具体的なイメージの醸成に繋がると思う。

4. まとめ

- ・ソーシャルワーク実践研究会は今年度いっぱいオンラインを活用した運営を継続し、効果測定を行っていく。また告知方法については継続的に検討しながら進めていく。
- ・入学前説明会には教職員が介入せず、入学検討者と在校生や卒業生とざくばらんに話ができる機会を企画する。ただし、コロナウイルスの感染状況も落ち着きを見せない為、今年度どこまで対応できるかは未定。状況を見ながら検討を進めていく。

以上